

ふるさと米子 探検隊

第6号 中海 入門の巻 2006年3月30日



ながみ 中海の探検に出かけよう！

編／発行 米子市立図書館
TEL0859-22-2612 FAX0859-22-2637
<http://lib.yonago-city.jp/lib/>

しろやま ゆうだい
米子の城山に登ると、東には大山の雄大な姿、また弓ヶ浜半島につながる広々とした米
さとやま に ほんかい なが
里山が続き、西側には遠くの島根半島まで、静かな中海の湖面が広がっています。こうしてあたりを眺めてみると、あらためてわたくしたち米子市民は、美しく豊かな自然に恵まれたところに暮らしていることに気がつきます。

今回の探検は中海。むかしの人は、中海とどんな関わりがあったのでしょうか。中海の自然にはどんな特徴があるのでしょう。調べてみたいことがいくらでもあります。さあ、みんなで探検に出かけましょう。

探検隊の参考資料

図書館には、みんなの探検を助けてくれるたくさんの資料があります。

- ・「かんきょう教室 水とみどりの米子」環境学習資料編集委員会／編
米子市教育委員会 1996 Y519/K6
- ・「地球にやさしい人とまち・米子」環境学習資料編集委員会／編
米子市教育委員会 1997 Y519/K6-2
- ・「宍道湖・中海ラムサール条約ガイドブック」ラムサール条約ガイドブック編集委員会／編
宍道湖・中海汽水湖研究所 2004 Y519/R1
- ・「調べようみんなで中海 1・2」美しい中海を守る住民会議／編・刊
1997 Y519/U2
- ・「なかうみ 環境新聞〔中海〕発行200号記念誌」彦名地区環境をよくする会／編・刊
2004 Y519/H2-2
- ・「平成16年度 米子水鳥公園事業報告書」(米子水鳥公園十周年記念誌)中海水鳥国際交流基金財団／編・刊
2005 Y518/Y5-3/4
- ・「よみがえれ湖」保母武彦／著 同時代社 1989 Y519/H1
- ・「新修 米子市史 第6巻 (自然編)」米子市史編さん協議会／編 米子市
Y224/Y19/6

(資料名の後の数字と記号は「請求記号」です(ラベルの番号)。資料の配列場所を示
しています。図書館にはこの他にもたくさんある資料があります。)

汽水湖ってどんなもの？

なかうみ 中海は、なかうみ、ちゅうかい、なかのうみ、などと呼ばれ、米子地方に住む人々にふるくから親しまれてきました。中海の広さは92.1km²で、日本で5番めに大きな湖です。一番深いところでも8.4m、平均5.4mの比較的浅い湖です。

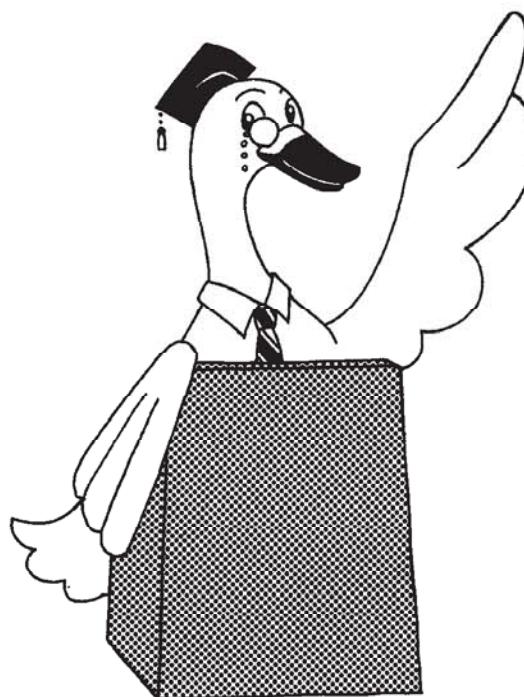
中海は長さ7kmほどの大橋川によって、松江市の宍道湖とつながっています。宍道湖は面積81.8km²、やはり中海とおなじように、平均の深さが4.5mと浅く、日本で七番めの大きさの湖です。

宍道湖と中海は二つのつながった湖で、両方合わせると日本で一番大きな面積の汽水湖といわれています。中海や宍道湖にそぞぐ川の数は、主なものだけを数えても50を超えていました。川からながれこむ水は真水（淡水）ですが、境水道から入りこんでくる海水と混ざり合うことで、汽水と呼ばれる湖が生まれるので。汽水とは、水のなかに含まれる塩の量が、海水と淡水の中間の水のことです。

宍道湖と中海という二つがつながった湖は、水が行き来しにくい仕組みになっていて、同じ汽水湖でありながら、塩の濃さは大きく違います。上流の宍道湖は淡水に近く、塩分は海水の約10分の1、下流の中海は海水の約2分の1という特徴を持っています。

こうした水質の違いが、宍道湖や中海に住む生き物に、たくさんの生きる場所を与えるために驚くほど多くの種類の生き物が生きていくことのできる環境がつくられたのでした。

ところが現在の中海は、周辺の人口の増加や人々の生活の変化、干拓による埋め立て・しゅんせつ、コンクリートによる人口護岸の増加などにより、昔の姿とは大きくかわり、水も汚れてしまいました。赤潮の発生や魚の大量死など、生態系への影響が大きな問題となっています。



- ・中海に流れ込む川を数えてみよう
- ・宍道湖と中海を比べてみよう
- 塩分・魚・貝・藻・水鳥・周辺人口・
貯水量
- ・環境汚染の原因を考えてみよう
- ・自分にできる環境保護にはどんなものがあるか、考えてみよう



自然豊かな昔の中海

むかしの中海は、水がきれいで、魚や貝がたくさんとれました。中海の近くに暮らす家の食卓には、いつも中海からとれたものがあったといいます。なかでもアカガイやウナギは、遠くの地方にまで知られた中海の特産品として有名でした。

とても悲しいことに、今の中海は汚れてしまい、むかしはここで水泳ができたなんて信じられないほどになってしまいました。そこで、中海の本当の姿を皆さんに身近に感じてもらうため、むかしの中海を良く知っている方にインタビューしてみました。

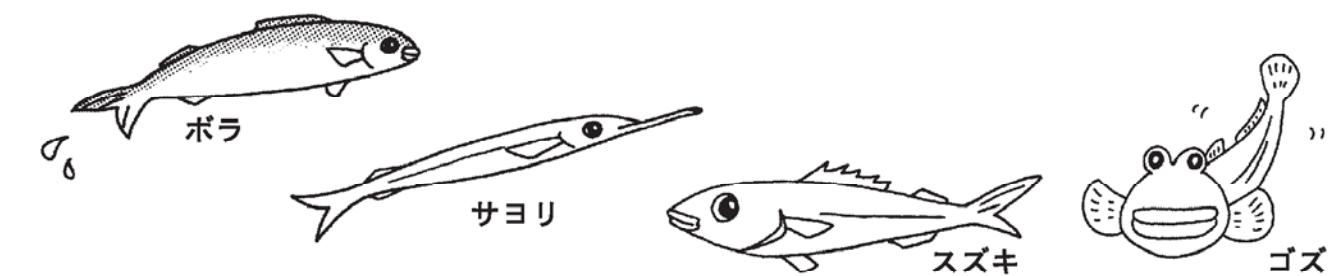
藤岡康さん（彦名公民館の館長さん、1928年生まれ）

- ・彦名の海岸はとてもきれいで、40mぐらい沖まで砂地で、夏は海水浴場になっていました。
- ・浅瀬には藻がたくさんはえていて、カレイ・エイ・ハゼ・アオデガニ・エビなどがたくさんいました。藻は、魚の産卵場所になっていたようです。
- ・藻刈りがとてもさかんでした。弓ヶ浜半島は砂地で、土の栄養分が足りません。そこで中海の藻を取って、畑の肥料として使いました。春から秋にかけて、対岸の島根県の方まで藻刈りに行きました。
- ・集落ごとに船着場があり、航海の安全と海の恵みを願って「竜神」様が祭っていました。
- ・寒い時期になるとアカガイとりが盛んになりました。特にマナイタ岩（いまの水鳥公園の沖合い）あたりでとてもたくさんとれました。

（お年寄りからの聞き取りは『調べよう！みんなで中海』のなかにもたくさんあります）



昭和初期の藻刈り（モンバ採り）：境港市教育委員会提供



ながうみ 中海生きものマップ



(※このページの写真は、財団法人 宍道湖・中海
汽水研究所が出版された『宍道湖・中海ラムサー
ル条約ガイドブック』からお借りしました。)

ラムサール条約

いま、汚れた中海の環境をなんとかくい止め、むかしのきれいで豊かだった中海を取り戻そ
うと、多くの人々が活動を始めています。そうしたなかで、2005年11月8日、宍道湖・中海が
ラムサール条約の湿地の中に登録されることが決まりました。環境問題に積極的に取り組んで
こられた方々にはなによりの良い知らせでした。また中海近くに住む私たちにとっても、これ
はとても重要な意味を持つ条約です。

ラムサール条約って何？

中東の国イランの、世界最大の湖カスピ海の近くに「ラムサール」という町があります。そ
の町で1971年に水鳥と湿地に関する国際会議が開かれました。この時「特に水鳥の生息地とし
て国際的に大切な湿地に関する条約」が取り決められました。これがラムサール条約です。こ
の条約は、一定の基準を満たした湿地を持つ国の政府が、条約の登録簿に登録することによつ
て効力を持つことになります。

条約で何が変わるの？

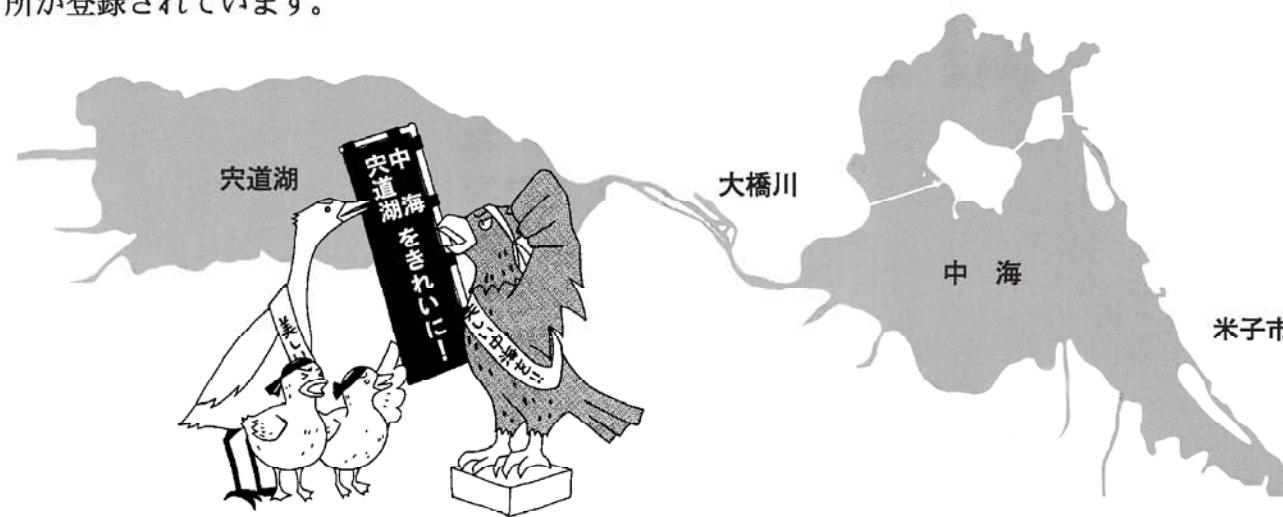
条約の登録湿地になると、その地域に住む人々が、責任を持って湿地を守らなければなりま
せん。指定された地域内では 1) 水面の埋め立てや干拓 2) 竹や樹木の伐採
3) 工作物の設置 などが制限されます。

「ワイスユース」って何？

ラムサール条約は、「湿地の賢明な利用」を目標としています。宍道湖や中海の持つ生態系
(生き物の命のつながり) をこわさないようにして、湿地のめぐみを将来の世代に伝えていこ
うという考え方です。

他にどんなところがあるのかな？

1980年に登録された北海道の釧路湿原を初めに、滋賀県の琵琶湖、福島・群馬・新潟県にま
たがる尾瀬、福井県の三方五湖、沖縄県の慶良間諸島海域など、2006年1月までに全国で33カ
所が登録されています。



米子水鳥公園

ラムサール条約登録湿地に指定された宍道湖・中海は、多くの水鳥の渡来地としても知られ
ています。これまでの調査によれば、冬の間、中海には約7万5千羽、宍道湖には4万6千羽
もの鳥たちがやってくることが報告されています。とりわけ彦名干拓地とその周辺には、200
種あまりの鳥たちがやってくることがわかりました。これは、日本の国で確認された鳥類の40
パーセントにものぼります。

米子水鳥公園の誕生

長い間中海の鳥類の生息調査を続け、保護活動を続けていた米子野鳥保護の会の陳情（お願
いごとをすること）により、1974年、環境庁は湊山などを含む中海のほとんどの地域を鳥獣保
護区に指定しました。しかし、コハクチョウの集団越冬地（冬をすごすところ）としては西日
本最大の中海も、中海干拓事業のために、鳥たちのねぐらとなる浅瀬が、次々と失われていき
ました。

島根県の揖屋干拓地の工事が終わりかけた1982年、揖屋の白鳥海岸からコハクチョウの姿が
消えました。そのころから、急に彦名干拓地に集まるコハクチョウの数が増えていきました。
コハクチョウだけではなく、マガ・シギ・チドリなどの数もふえていきました。彦名干拓地
の工事途中にできた大きな浅瀬が、野鳥たちの最後の居場所になったのです。米子野鳥保護の
会や多くの市民が、この浅瀬を守るために活躍しました。そこで米子市は、この野鳥生息地を
保護することに決め、市民が自然と触れ合うことの出来る公園として整備することにしました。
こうして米子水鳥公園が誕生しました。

世界とつながる水鳥公園

米子水鳥公園は、水鳥の観察だけでなく、自然環境の学習の場、野鳥の調査・研究の場、ま
たユニークな観光施設として、人々に親しまれ、利用されています。また水鳥公園に生息する
野鳥の多くは、南や北の遠い国からやってきて、再び帰っていきます。水鳥公園は、この鳥たち
を通して、世界の国々とつながっているのです。



チャレンジ 環境問題と自然保護！

「中海湖上観察学習会」に参加してみよう！

米子市では、毎年、夏休みに「中海湖上観察学習会」を開いています。米子港から船に乗って中海に出かけます。船上で、中海のことにくわしい先生がたから、中海の歴史や自然環境についてのお話を聞くことができます。

参加した皆さんには、水質測定の方法も勉強します。水の透明度や汚れ度（PH・COD・溶存酸素）など、水質を計測する基本的な方法について学びます。

7月に、学校を通じて募集があります。みんなも、チャレンジしてみよう！

問い合わせ先／米子市役所環境政策課環境計画係 Tel 23-5256 Fax 23-5258

（市内小学生5・6年生が対象です）



米子水鳥公園へ行ってみよう！

7ページで紹介した水鳥公園、中海水鳥国際交流基金財団 米子水鳥公園は、自然観察を学ぶためのとても良い施設です。自然観察会、手作り自然教室、子ども野鳥クラブなど、さまざまなイベントをしています。みんなも参加してみよう！

米子市彦名新田665 Tel 24-6139 Fax 24-6140

休館日 毎週火曜日 小・中学生 入館無料

<http://www.yonagomizudorikouen.or.jp>

ゴビウスをのぞいてみよう！

島根県立宍道湖自然館ゴビウスは、宍道湖に住む魚や水中生物の生態を学ぶための施設です。鳥の剥製や昆虫の標本もあります。

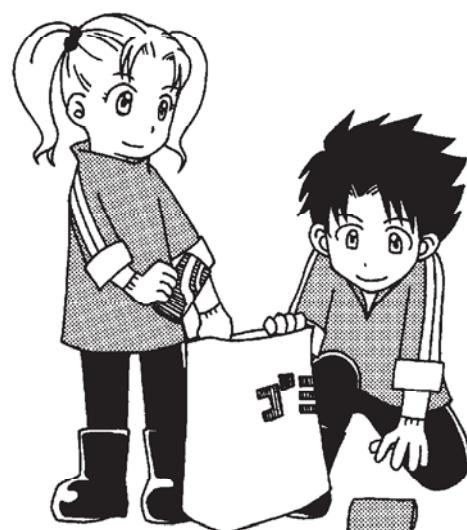
毎月、生きもの観察会も開かれます。

島根県出雲市園町沖の島1659-5

Tel (0853) 63-7100 Fax (0853) 63-7101

休館日 毎週月曜日 入館料 小・中学生200円

<http://www2.pref.shimane.jp/gobius/top.htm>



（イラストは難波康子さん）